

学校教育評価表（小学校）

学校名 大津市立平野小学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項目	評価の観点	自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価(意見・提言等)	
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3	・校内の研修だけでなく、外部講師の活用などを行いつつ、学級集団づくりを工夫し実践に生かすことができています。子どもたちのよりよい学びに結びつけられるよう、期待する。 ・ICTをうまく活用できている。学級活動や係活動等でも子ども達がコミュニケーションツールの一つとして活用できていた。子ども同士が伝え合う喜びを知るきっかけとなっている。	
	2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	2			
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会の実施	2			
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	2	・生命の尊重やいじめについては学校生活全般について常日頃から子どもたちに働きかけているため、子どもたちにも身につけていると思う。 ・事案発生時、保護者との連携もよいと考える。 ・就学前から保護者がしっかりと自分の命を大切にすることを教えていくべきである。 ・道徳参観では、子どもたちで考えていよいよ授業だった。子ども達で自ら語り合い、発表する、「答えを出さない」学習は、子ども達にとってよい気づきになると考える。	
	5 ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2			
	6 保護者等への道徳科の授業公開	2			
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	2	・運動会や休み時間等の子どもたちの様子を見ていると、率先して身体を動かし、健康的である。「みて」「とべた」など声をかけてくる児童もいる。心身とも健康な子どもの育成に尽力していきたい。 ・楽しいと思える体育の授業づくりのために、教材や場づくりの研究など積極的に取り組んでいるのはすばらしい。 ・担任の声かけで運動の楽しみに気づくことができた。教師の得意なことを生かし、休み時間にクラスを交換して入るなどできておもしろいのではないかと。	
	8 体力づくりを推進する運動実践	2			
	9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2			
指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3	・学習が苦手な児童へのサポート体制について、休み時間に担任や教務が学習のフォローをしている様子を見かける。働き方改革の面からも教師の負担が多いように感じる。そのため、学校生活支援員の配置はきわめて重要である。学級数に対して足りているのか疑問。今後、増員されることを望む。 ・子ども達は楽しく頑張っている。しっかりと学年に応じた学力をつけていく。教員の指導力の向上と教材の工夫などが必要であると考えている。	
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3			
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2			
育ちと学びを支える 連携	① 家庭・地域との 連携・協働	13 子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	・地域で朝の見守りを行っている、子ども達は楽しいことや困っていることなども話してくれる。少しでも心安らぐ時間になるとよいと思っている。 ・登校時には、地域の多くの方が、子どもの見守りに立っているが、下校時は登校ほどの見守りができていない。子どもの安全を確保するために、地域で協力体制を組むなど、少しずつでも改善する必要がある。学校からの提案があってもよい。 ・保護者も登下校の見守りにはもって、参加するべきだと思う。
		14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2		
		15 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3		
	② 保幼小中の 連携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	2	・年々、交流が増えてきており、今後も時間が許す限り積極的に行ってほしい。 ・入学する園児について、各園とつながりをしっかりと取り、園児や保護者の不安解消に努められている。 ・地域としても、何かできることがないか考えている。 ・幼小の合同研修は、お互いを知るためにもよい取組である。 ・中1ギャップについて、中学校と小学校の学びの接続が大切である。特に英語科はギャップを感じやすい。
		17 校種間の授業公開や合同研修会	2		
		18 保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2		
組織的体制の 充 実	① 生徒指導体制の 充 実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	・保護者、子どもアンケートにあるように、いじめ対応が充実している。今後も早期発見、情報を共有して適切に対応してほしい。 ・困ったことや心配ごとなどを相談できる環境がよい。家では両親、学校では教務など、担任には言いにくいことが相談できる体制を大切にしていきたい。 ・課題のある児童については、それぞれの特性や背景を認めつつ、指導に生かし、安心・安全を与えられるように取り組んでいると判断できる。
		20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3		
		21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		
	② 特別支援教育の 充 実	22 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	3	3	・特別支援学級への入級児童が増加しており、年々、運営が充実していることが伺える。保護者が悩んでおられることが多いので、気持ちに寄り添うことが大切。 ・校内特支委員会が機能し、早期の問題解決につながっている。 ・一人一人に子どもに対してきめ細かな支援が実施されている。 ・様々な子どもがいる中で、教育的配慮が必要な児童にスポットがあたるが、周りの「学びたい」と思っている児童が落ち着いて学習する権利も守られるべきである。
		23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3		
		24 関係機関と連携した相談体制の充実	3		

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3
-------	----	------------	---	---

※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小教第2位まで記入) 2.53

※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小教第2位まで記入) 2.46

* 各校の学校計画書から上記の1～23の評価点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記にしている。
* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています